



へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292

へき地教育研修における国際社会貢献 --JICA・ラオス・アラスカ等との交流と 国際社会における北海道教育大学の役割--

【外国からのへき地教育研修依頼】

Q 世界各国から北海道教育大学にへき地教育研修の依頼があるのですか。

近年は、ホンジュラス等JICA中南米の国々やアジア等から、へき地教育に関する研修依頼が北海道教育大学に寄せられております。これは日本のへき地教育の内容・



JICAの大学表敬訪問
各国の記念品を頂いた歓迎挨拶

指導方法が世界の中でも評価されており、JICA等を通じて「日本のへき地教育を学びたい」という要望が強くなっているためです。へき地教育研修に関しては、とりわけへき地・小規模校教育研究センターが3週間の研修の受け入れを行い、実際の研修指導は釧路校と学務部国際課が中心となり実施します。中南米各国の参加者は、教育行政幹部や学校現場の代表者が参加しています。



へき地校での児童との交流学習



へき地校での児童との対面式



へき地校 幌呂小学校全校児童 交流会
「じゃんけんれっしゃ」



へき地校での全校集会での交流

【海外からのへき地教育研修の受け入れ団体】

Q 最近の受け入れ国はどんな国ですか。

この間の受け入れ研修団体は、以下のとおりです。

パナマ等のJICA中南米へき地教育振興コース	2017年～2019年
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会委託事業への協力 「ラオス人民民主共和国の複式学級運営改善に関わる研修」受入	2018年～2021年
台湾政府、台湾大学関係者の視察受入	2019年
JICAへき地教育振興コース（英語圏を予定）	2020年～(数年間の予定)



2019年5月4日 ラオスにて
JICA草の根技術協力事業公益社団法人シャンティ国際ボランティア会『ラオス北部地域複式学級運営改善事業研修』閉校式



2019年6月 釧路校にて
釧路校棚澤へき研センター員によるJICA中南米へき地教育振興コース研修生への「へき地教育」の講義の様子

【各国の評価が高いへき地教育研修】

Q ラオスやJICAなどの各国からの評価はどのようなものですか。

これらの国からは、日本のへき地教育研修参加の満足度は極めて高く、各国とも自国に持ち帰り、日本のへき地教育の一端を紹介し、できるところから真似ていきたいとの感想が寄せられております。



ラオス・ルアンパバーン県へき地校の複式学級の授業（国語）の様子（1～3年生）

ラオス・
運動場で全校集会



ラオス・首都ヴィエンチャン郊外の学校にも複式学級がある。



【JICA・ラオスのへき地教育研修内容】

Q JICA中南米やラオスのへき地教育研修団に提供するへき地教育研修ではどのような内容を実施しているのですか。

2週間～3週間の滞在期間では、日本のへき地教育に関する講習、複式授業の指導案作成、学生との意見交換、大学関係者による講義の受講、大学のへき地教育論授業参観、へき地小規模校の訪問、等が主な研修活動です。

中南米各国やラオスの人たちは、日本のへき地教育の特徴を聞いて、複式授業においても、「わたり・ずらし」の指導方法や少人数の活動的な学習・討論・発表など、定立的な指導方法に驚きます。



へき地校で子供からけん玉を教わる
JICA研修生（幌呂小学校1学生）



へき地・複式授業参観
（太田小学校5・6年生）



へき地校の少人数学習
授業参観（幌呂小学校2年）

【ラオスの現地指導】

Q ラオスのへき地校の現地指導なども行っているのですか。

北海道教育大学の国際社会貢献という観点で、ラオスのへき地校への訪問も何名かの教員が訪問しています。12月にも数名のへき研センター員がラオスに訪問します。海外の実際のへき地校を見ながら学校制度や学級活動・生活指導体系・指導方法などについてアドバイスします。発展途上国の教育関係者はまず日本の教育現場も見ているので、発展途上国として日本のシステムを取り入れようとするときに、日本のへき地教育の指導をいかに取り入れられるかを聞きたいと感じています。



2019年5月
ラオスにて研修生に講義をしているへき地・小規模校教育研究センター 川前副センター長



2019年6月
JICA中南米研修による各国のへき地教育の現状と課題を発表し、学生からの質疑に回答している様子



【北海道教育大学のへき地校教師の教員養成への関心】

Q 外国のへき地教育研修団は、北海道教育大学のへき地教育の教員養成についても関心を持っているのですか。

外国のへき地教育研修団がへき地校を訪問して関心を寄せるのは、日本におけるへき地教育の担い手としての教師の質の高さです。そしてそれを養成している日本の教員養成大学のカリキュラムに関心があります。特にへき地教育の教員養成については、北海道教育大学のへき地教育プログラムについて関心を寄せております。

発展途上国においても、へき地教育を担う教師の質の向上が課題となるので、へき地教育の教員養成や教員研修などは重要な課題と捉えております。



釧路校での歓迎インターナショナルナイト

【世界に果たす日本のへき地教育への期待】

Q 世界の中から見ても、北海道教育大学のへき地教育研究が果たす役割は、どのようなものがありますか。

日本のへき地教育は内容が体系化されているだけでなく、少人数・複式の指導方法も全国的に一定の方法が普及し、確立しております。このような少人数の指導方法は、今後日本においても、全国的な小規模校にも普及することが予想されます。その意味では、日本のへき地教育の制度や少人数指導方法は、さらに国際的にも情報提供や研修指導において大きな役割を果たすことが期待されております。国際的に見て北海道教育大学の役割は大きいものがあります。

【北海道教育大学が果たすへき地国際社会貢献の役割】

Q 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターが国際的な社会貢献に果たす役割や活動はこれからどのように展開していきますか。

ラオスやJICAのへき地教育訪問団だけでなく、世界のへき地教育に果たす北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターの役割は大きなものとなっております。

またアラスカ大学のAlaska Native Knowledge Network Centerと北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターとは、研究相互交流を深めていて、今後世界の中での情報提供も大きな役割を果たすようになるでしょう。

この他、台湾等のアジア圏からのへき地教育の視察依頼も増えてきております。

現在は北海道教育大学の受け入れ体制のキャパシティがオーバーしているため、海外へき地教育研修団の全部を受け入れることは難しいですが、体制が整えられるようになれば、さらに北海道教育大学への依頼が増えていくことでしょう。



2014年～2019年 アラスカのへき地校

